

# DOSHISHA

Tokyo Journal 同志社東京ジャーナル

2022  
Winter  
No.126



## 同志社東京校友会 INDEX

表紙写真：リユニオン&ホームカミングデー 開会式

- ・ 2022 新春メッセージ 横山 徹 会長
- ・ 「2022 秋の集い」のご案内 青木重之実行委員長
- ・ 【新春座談会】 With コロナ時代の校友会活動
- ・ リユニオン&ホームカミングデー
- ・ 特別協力会員の集い 植木朝子学長講演会

- ・ 第6回親睦ゴルフコンペ
- ・ 登録団体活動レポート・同志社東京アンサンブル
- ・ 同志社スポーツ・硬式野球部
- ・ 【連載】片桐家同志社五代記（三十九）
- ・ コラム 今出川・京田辺四季
- ・ 校友訪問・チェスター税理士事務所 荒巻善宏さん
- ・ 幹事会・評議員会レポート
- ・ 校友会「俳壇」

2022年新春メッセージ

同志社  
東京校友会

会長・横山徹

# 「ウイズコロナ」から「アフターコロナ」へ

東京校友会会員の皆様、あけましておめでとうございます。ご家族とともに輝かしい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。本年も引き続きご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## コロナ禍で苦しんだ2年間

会を代表して新年のご挨拶をさせていただきます。

2020年から約2年間、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言と蔓延防止措置などが繰り返され、人々の行動が大きく変わってしまいました。



同志社東京校友会 会長 横山 徹

そして、その影響は校友会の諸活動まで広がりました。皆様ご存じのように校友会活動の原点は、「群れる」機会を多く提供し、できるだけたくさんの方々が情報交換や懇親を行うこと、また現役世代中心にビジネス系セミナーを開催して、若い仲間を増やすことにあります。

さらに大学側への協力策として「2025 ALL DOSHISHA」募金への積極的な協力、関東出身学生への支援策として東京校友会独自の奨学金制度、学生の部活動を東京地区で積極的に支援することなど、結果として大学と様々な課題を共有し解決することも重要です。しかし、「2020 春の集い」「2021 初秋の集い」は、例年通り、当該年度で構成する実行委員会が全力で準備させていただきましたが、ご案内させていただきましたように無念の中止となり、2回続けて会場キャンセル料が発生しました。さらに、皆様からご要望のあるセミナー関連企画も、セミナー室が使用できないこともあり中止など計画通りに実施できなくなっただけでなく、2年が経過いたしました。誠に残念でなりません。

また、大学と校友会の共催行事「リユニオン&ホームカミングデー」はオンライン開催となり、「同志社フェア」は中止せざるをえなくなりました。他にも、やはり年次会などの関連団体の総会が開催できないこともあり、結果として当会の会員数に影響が及びつつあるのが現状です。

## 新時代のスタイル、方法を

とはいえ、昨年の10月あたりからやっとな全国的に感染者数も落ち着いてきて、緊急事態宣言も解除になり、徐々に「ウイズコロナ」での諸活動が定着し始めました。

先日のホームカミングデーでは、ネットでのライブ配信で開会式や記念講演など実施され、多くの校友が新鮮な感覚で参加されたと聞いております。

東京校友会でも、特別協力会員の皆様を対象にオンラインで植木学長のライブ講演会を実施させていただきました。新しい手法による行事を実施しました。

さらに「2022秋の集い(仮称)」は、実行委員会もしっかり組織化しつつあり、新時代の開催方法を模索致しております。今後の当会主催行事は、でき

る限りリアル参加とオンライン参加によるハイブリッド型の開催とすることも視野に入れて検討をしていきたいと考えております。

また、直近の行事としては、大磯での校祖「終焉の地碑前祭」や神田での校祖「生誕の地碑前祭」などが控えていますが、密を避け、参加人員を制限したり、大きな声を出さないなど新しいスタイルでの実施を提案しています。

本当に予期せぬことの連続で、様々なことがありました。まだまだ厳しい状況は当分続くかもしれませんが、コロナウイルスを寛容に受け入れる「ウイズコロナ時代」からさらに一刻も早く脱却して、これまでとは全く違う新しい日常、「アフターコロナ」時代になれば、と強く願っております。

どうぞ皆様におかれましては、日々十分にお気をつけいただきたいと思います。また改めてご案内させていただく行事にて、お元氣でお目にかかれることを楽しみにいたしております。

本年も東京校友会をよろしくお願ひして、新年のご挨拶に替えさせていただきます。

2022 同志社  
「秋の集い」へ

# コロナを乗り越えて、 集いましょう、再び！

ALL DOSHISYA

■実行委員長

青木重之(78年・経)

過去2年の「集い」は、コロナによる影響で中止せざるを得ず、今年こそ開催との意欲に燃えて実行委員会を組織しました。ウィズコロナ時代にマッチした新たな形での「2022同志社東京 秋の集い」を企画してまいります。

9月18日の開催へ

皆様、新年あけましておめでとうございます。2年近くに及ぶコロナとの闘いもまだまだ先行きが見通せない

状況です。過去2年は、各年の実行委員会の皆さんが苦心を重ねて企画された「集い」も、コロナの影響で中止となりました。「今年こそ開催！」の意気込みで、主幹事年代の昭和53年卒を中心に、昭和63年、平成10年・20年卒のメンバーで実行委員会を結成いたしました。

今後、ウィズコロナ時代にふさわしい新たな「集い」のあり方を模索したいと思っております。開催時期も、少しでもコロナの影響を回避すべく、現在9月18日(日)の「秋の集い」を想定、ソーシャルディスタンスを確保しながらも、中止となった昨年より多くの皆様にご参加いただける会場を探索した結果、品川プリンスホテルでの開催で準備を始めているところです。

テーマもまだ決定していませんが、やはりウィズ/ポストコ

ロナ時代にふさわしいものにしたたいと考えております。

ハイブリッドにも挑戦！

また、新たな形の「集い」として、リアルとWEBのハイブリット開催にチャレンジしてまいります。

より多くの現役世代の皆さんにも参加いただけるような魅力的なコンテンツ(WEBも含め)を企画していきたいと意気込んでおります。

この2年は、大学や校友会行事だけでなく、あらゆる登録団体(年次会・体育会・文科系サークル・業界団体等)の会合が中止になっている中、再度各サークル活動の立て直しのお役に立てるような企画も盛り込んでいきたいと考えています。

参加者募集につきましましては、これまで以上にSNSを活用し、校友会の活動をご存じない校友の皆様にも情報をお届けし



品川プリンスホテル

てまいります。

一方、2022年前半にも総会・講演会等を開催されるご予定のある登録団体の皆様には、その席に直接お邪魔して、「秋の集い」のご案内をさせていただきます。どうかと考えておりますので、開催情報を実行委員会までご連絡をお願いいたします。

さらに、例年のお願いで恐縮

ですが、企業・協賛・名刺広告へのご協力も併せてよろしくお願ひ申し上げます。

9月18日(日)は、皆様お誘いあわせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。



新春座談会

東京校友会のあり方を考える



# With コロナ時代の校友会活動

新年号の特別企画として、「With コロナ時代」の校友会活動はいかにあるべきか、課題と解決の方向性を考える」というテーマで、東京校友会役員による座談会を開催しました。



司会 谷村常任幹事

様々な経緯で校友会に

**新田 (副代表幹事・東京ジャーナル編集長)** 皆さん、あけましておめでとうございます。

**全員** おめでとうございます。

**新田** 今日はお忙しい中、ありがとうございます。今年度はコロナ禍のためイベントの大半が中止になり、会議も大半がオンラインでした。今日は「With コロナ時代の校友会活動とは？」というテーマで、中長期的観点から東京校友会のあり方、そして喫緊の課題である会員数の伸び悩み問題などについて議論をいただければと思います。普段なかなか執行部で話し合う機会がないので、今日はそういう意味も込めてお集まりをいただきました。

**司会・谷村 (常任幹事)** では、早速始めます。今、新田さんから話がありました。今、新田さんは「With コロナ」時代の校友会

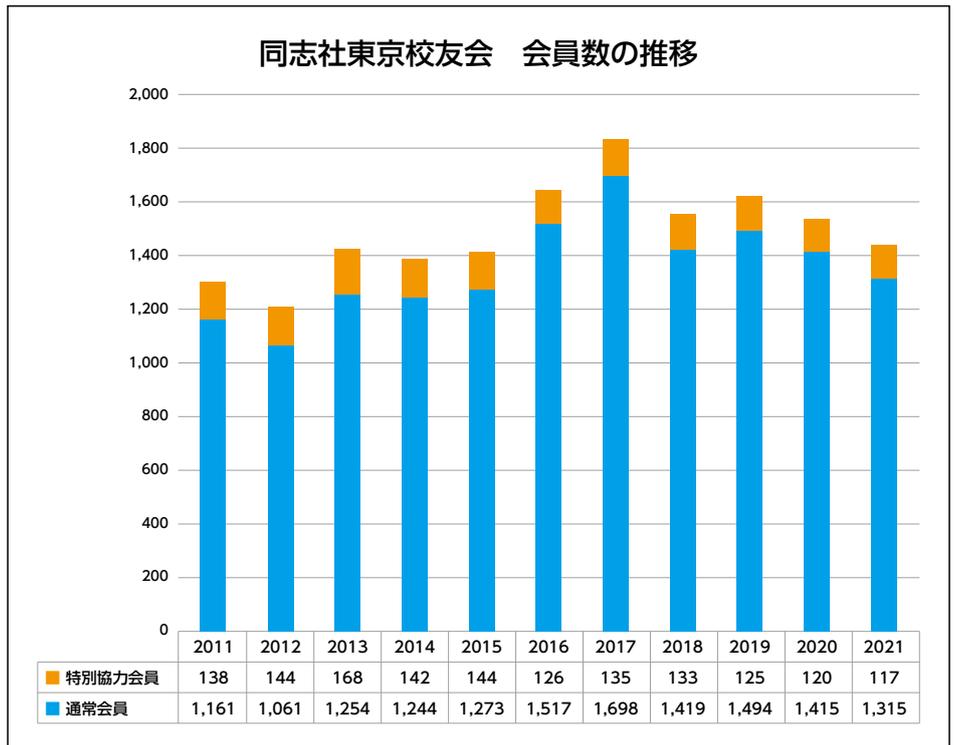
活動はいかにあるべきか、課題と解決の方向性を考える」と少し硬いですが、ざっくりばらんにお願いします。では、横山会長から東京校友会に関わった経緯と、東京校友会をどう思っておられたか教えて下さい。

**横山 (会長)** 私の現役時代に、「エグゼクティブの会」というのがあり、一部上場企業の部長職以上の校友に案内が来て、参加したのが最初です。常任幹事になった背景は、年次会の東京46会です。46会には発足当初から入っていきまして、活動するうちに会長になり、「春の集い」の実行委員長をやったあと、常任幹事、代表幹事を経て現在に至っています。

**谷村** いい流れですね。どういう方々が常任幹事とか会長をやっているのが読者に分かりやすい。阪口代表幹事はどんな経緯で？

**阪口 (代表幹事)** 東京校友会とのつながりは、私がワンダーフォーゲル部出身で、大先輩に北濃登美男元代表幹事がおられた、その縁です。「春の集い」のお誘いを受け、リーガロイヤルホテルに行きました。最初は知らないばかりで、まるで「壁

同志社東京校友会 会員数の推移



の花」。そのうちに、評議員にと先輩たちに言われ、次は幹事にと徐々にエスカレート(笑)。常任幹事にと北濃さんに言われ現在に至っています。

**谷村** 神内副会長の場合は？

**神内 (副会長)** 2007年の「春の集い」の前に、東京校友会の当時の代表幹事の結城さん

や常任幹事の野崎さんから突然呼ばれ、年次会、私の場合は47会結成の要請がありました。

**谷村** その後、千葉県支部の支部長もなさっていますね。

**神内** 47会を設立し会長になると自動的に東京校友会の幹事・評議員になります。常任幹事の永山さんが、千葉県支部長に転



横山会長

出されました。千葉県に住む私としては、千葉県支部にも顔を出すようになり、2013年に永山さんの後を引き継ぎ千葉県支部長になりました。

また2016年には、47会が「春の集い」の当番幹事となり、私が実行委員長になったことから、児玉前会長から、「せっかくやから東京校友会でも副会長をすれば」とお言葉をいただき、現在に至っています。

やはり誰も知らない。面白くないなと思っていたら、あるとき金屋さんに出会ったのです。副会長の金屋さんとは3つ接点がありました。ESSが1つ、45会が2つ目。3つ目は商学部卒業生の集まりで樹徳会東京支部。それで私、いつの間にか樹徳会東京支部の総会で司会をさせられ、45会でも評議員。そして北濃さんを紹介され、金屋さんとタッグで常任幹事に取り込まれました(笑)。

**谷村** 新田さんはどんな経緯でしたか？

**新田** 私は大学時代カメラクラブにいまして、3年の終わりに卒業アルバム委員会を作ったんですが、卒業後もOBとしていろいろなサポートをして、ラグビーの取材で国立競技場に写真を撮りに行ったりしていました。その頃に東京支部の小出さんにお世話になり、「東京ニュース」創刊の時に声を掛けていただき、創刊メンバーとして7年ほど編集委員をやりました。その後、仕事が忙しくなって、しばらく東京校友会を離れていましたが、52年を再結成する話が出て、その時早田さんや近藤さんに誘わ

れて2015年に常任幹事に。現在は東京ジャーナルの編集長とホームページ・Facebookの管理者をしています。

**谷村** では、青木さんはどういった経緯で。

**青木(副代表幹事)** 私は皆さんとちよつと違っていて、キリンビールにいたのですが、キリンには東京校友会の職域評議員みたいなのがあり、当時、40年卒の中川さんが評議員をされていた。その彼がリタイアされて後任の評議員が私に回って来た。2001年のリーガロイヤルでの「春の集い」に初めて参加したのですが、職域評議員は特にやることもないし(笑)、実際に関わったのは53年の年次会から。2010年頃常任幹事の近藤さんから50年代前半の年次会を作れというお話があった。53会にはラグビー部出身の出石さんがいて、彼が中心になって動いてくれたのですが、



青木副代表幹事

いつの間にか僕が会長に祭り上げられて、続いて校友会の幹事・評議員になりました。

**ウイズコロナからポストコロナへ**

**谷村** 年次会やサークルや職域や樹徳会みたいな存在は大きいですね。話を戻すと、多分80年代ぐらいから首都圏での同志社人が増えてきましたよね。

**神内** 文系、特に商学部や経済学部などは、東京の大手金融機関に就職するのが一つのステータスみたいになっていたこともあって、東京が多いのですよ。

**谷村** そうなのですね。

**神内** 80年代はあの「バブル」の真ん中で、東京は国際金融都市としてもはやされ、日本経済全体も東京への一極集中が加速した。当然のことながら東京に多くの人が集まった。

**谷村** そこで横山さんが言われたように、「東京」での存在感をどうするのかということ、その気運にはリアリティーがあったわけですね。2000〜3000人の集まりじゃなく、もっと大きな根拠地としての東京校友会が必要になってきた。

**横山** そう思います。

**谷村** 東京での同志社人口が急

増してきたことから、中心軸が必要だということ、児玉前会長の10年間の中で、現在に続く基本的組織のあり方、東京校友会のあり方も徐々に固まってきた。その基本的なコンセプトは、「群れる・場を広げる・絆」この3つだと思えます。「群れて場を広げて絆を確かめあえる多くのイベントや事業が実施できました」と、ご自身も総括されています。その具体策として「集い」が継続的に開催されてきたわけですが、それがここ2年開催できなかった。この状況を横山会長は、どう感じているのでしょうか。

**横山** 「群れる」ということは、人と人が顔を合わせて話をするということ。オンラインだと情報量は、その画面上の情報しか伝わってきません。一方対面だと周りの雰囲気も吸収できて、非常に大きな情報量になります。これからはウイズコロナで、メディアによると、第6波が2〜3月に来るといいます。でもその規模は全国で300人〜400人程度らしい。状況は明らかに変わってきました。好転の要因はワクチン接種と日本人のきま

増してきたことから、中心軸が必要だということ、児玉前会長の10年間の中で、現在に続く基本的組織のあり方、東京校友会のあり方も徐々に固まってきた。その基本的なコンセプトは、「群れる・場を広げる・絆」この3つだと思えます。「群れて場を広げて絆を確かめあえる多くのイベントや事業が実施できました」と、ご自身も総括されています。その具体策として「集い」が継続的に開催されてきたわけですが、それがここ2年開催できなかった。この状況を横山会長は、どう感じているのでしょうか。

じめさ。校友会活動も、原則対面での活動に切り替えますが、対面は嫌だという人はオンラインで参加していただく。

**谷村** 一番は人対人、ということ。「群れる」意味での最大のイベントは「集い」ですよ。ご自身の経験とこの失われた2年間についての思いは、神内さんいかがですか。

**神内** 基本、人対人に重心を移すこと。これだけコロナ関連の指標が改善されて、行動規制もほとんど解除されましたから。そもそも「ウイズコロナ」という言葉自体がグレーなのです。人によって受け取り方が違う。しかし実際のコロナ関連指標はほとんど第1ステージですから、グレーと言っても実態は限りなくシロに近いグレー」だと思います。「集い」は2年中止が続きました。今年こそは本当に実施したい。

**谷村** 「集い」をやる意義や意味と、最終結果として会場で群れることも大事なだけけれど、実行委員会の中で会員も増えていくということもあるし、絆も深まっていく。元実行委員長としての実感は？

**神内** 同期の横のつながりの親

密化と10年きざみで後輩たちも一緒にやってくれることで、世代間コミュニケーションも図れる。この2つが最大のメリットでしょう。私の時は、10年若い57年次会の谷口さんから「メサイア」の提案があり、彼のプロデュースで見事な「メサイア」の合唱・合奏が「集い」に花を添えてくれました。次に残念な方の話ですが、結局今期ダメだった理由は、1つは飲食を伴うこと、もう1つはキャンセル料。コロナ下での飲食が問題視されるのは誰でもわかります。キャンセル料については、開催日が近づくにつれて上昇するので、開催中止か早めの判断が必要です。今期の場合、開催予定日は結果的に第5波の最中でしたから、早めの中止決定は正解でした。

**谷村** だからウイズコロナというテーマの立て方なのか、ウイズコロナであるのだけでも、神内さんが言っているように基本的にアフターコロナ、ポストコロナではないかと。

**青木** そうですね。今年私が実行委員長なので、正式に決めたわけではないのですが、一応ポストコロナという位置付けです。それから飲食。酒を伴うのは当然としても、buffスタイルは無理。当然コストが変わってくる。ただせっかく集まっていた方には、当然飲食を伴う形にします。それからハイブリッドにチャレンジしてみたい。会場に來なくても家から参加してもらおう。そのためコンテンツ作りは相当工夫が必要ですが、WEBで参加の方からも少額ですが会費はいただく。それをうまく使って会員増強に寄与できないかと。

**神内** すそ野を広げるためのハイブリッドはいいアイデアだと思います。コロナ対策のハイブリッドではなしに。これは明確にしておいた方がいい。



稲垣副代表幹事

**会員増強と若手対策**

**横山** 私が今考えているのは、児玉さんが改革をして、代表幹事の結城さんや北濃さんらが一生懸命努力されて、今日の基盤を作っていたいただいた。そして10

年経ってコロナがきて、ちょっと疲弊した。その東京校友会を立て直すために何をすべきか。おかげさまで財政に多少余裕がある今、先行投資の時期だと思っております。

**谷村** そこで今日一番のテーマである会員増強について、お考えをうかがいたいと思います。

**横山** 会員増強のポイントはやはり我々の方から校友の皆さんに、群れる機会じゃないけれど、いろんな情報を提供するという事です。

**谷村** そういうときに「若い会員を」とよく言いますが、思うに、その「若い」というのは極めて抽象的な概念なのです。僕がやっている俳句の世界では、一応プロと言われる3つの協会の平均年齢が75歳で、僕なんかまだ中堅。俳句の世界の新人賞って50歳ですから(笑)。「校友会」の世界もそんなニュアンスでは。

**新田** 私は若い会員というのは現役で働いていらつしやる方々、リタイア前の方はすべて若手と考えています。というのは、リタイア年齢が上昇傾向にあり、現在は65歳ですが、これからは70歳になっていきます。  
**青木** 安永さんや井手口さんな



新田副代表幹事

んかとも話しているのですが、「特別協力会員の集い」も特別協力会員と若いビジネスパーソンのコネクションのところを、一塊の集団にできないか。その時には多分50代ぐらいの若手なのだけれど、企業で言えば本当は経営の中心層ですよ。こういう人たちが20代30代の人たちを引っ張って行けるような、イベント的なものを開いていく。そして参加する際、会員は無料、非会員は有料というように、差別化をしながら会員を増やしていく。年会費3千円ぐらいなら会員になってもいい、と思わせることが重要。

**神内** 東京校友会は通常会員と特別協力会員による会員制です。個人情報保護法の強化により、以前は9千通〜1万通「集い」の案内状を出していたのに、今は会員だけにしか案内状を出せない。通常と特別合わせても1600通くらい。私案で、校



神内副会長

友会本部の手を借りる必要があるけれども、非会員の校友に、東京校友会の情報が必要かどうか、必要な方は連絡先を書いて下さいという連絡を封書でも、往復ハガキでもいいから送る。ハガキには保護シールつけて。連絡先を書いてくれた校友は連絡先登録校友という形にして、まずは「案内先」を拡大する。**稲垣** その人たちの連絡先をどうやって掴むのか、最初の手がかりは？  
**神内** 大学と校友会本部が名簿を共有しています。先ほど校友会本部の手を借りてと言ったのは、そのことです。

**横山** 校友会本部・大学が共有する名簿があるわけで、それで最近卒業した校友についても連絡先が分かっているわけですよ。一方、東京や関東甲信というの、校友会本部から常に注目されています。理事会や委員会などに出て東京はどうですかと必ず聞かれます。我々としては校友会本部と連携しながら、やはり「東京の新しい名簿作り」をしていかなければという思いがあります。  
**阪口** 校友会は分かっていますよ。大学と共有ですから。ただ連絡先の大半が実家です。  
**神内** 実家に届いていて、親切なご両親であれば、本人に転送してくれる。まずは送ることが大事。校友会本部は名簿を持っているのだから本部を通して送ってもらえばいい。こちらから宛先の条件を出してまず人数を確定する。次に東京で袋詰めをして本部に送り、向こうでラベリングして発送してもらう。  
**青木** 名簿なら現実的に使えるのはそれしかないですよ。あとはやはり年次会・サークルですね。各年次会やサークルで個々に名簿を持っていますから、そこを一



阪口代表幹事

つ一つ幹事に頼んでやってもらえば、活用できると思います。  
**校友会もダイバーシティへ**  
**谷村** 大きな呼びかけと個々のつながりは、「両輪」ですよ。  
**青木** 今年の実行委員会では、SNSを使ってどれだけ勧誘できるかにトライしてみます。その場合、いろいろSNSの会があつて、もちろん東京校友会のFacebookもあります。一番多いのは早瀬君がやっている今出川会が12500人ぐらい。全面的に協力してくれるとことなので、そこからどのぐらいできるかやってみます。  
**神内** 年次会ですが、例えば年次会開設サポートチームを、常任幹事会内に1チーム3人ずつ、3チームぐらいつくと、1年で年次会を10作るとすると、1年で昭和組が終わります。平成組は3年でほぼ仕上がりです。次はもう令和組です。そし

て、やはり自助努力で集めていくとすれば、年次会以外での登録団体にも設立を呼びかけていく必要があります。  
**青木** 我々の場合は「集い」の時に、何年から何年までの人集まらって声を掛けられて、そこで年次ごとに年次会を作るように言われました。それから、登録団体の方は、メディアアクトーパーティなどは、会員名簿送ってくれと言ってきてますので校友会の増強はこれからでしょうが、各業界団体なんかみんなそうですね。だからそこも含めてきちんとやれば、ある程度会員増になるかもしれない。  
**新田** 会員になるメリットについては、必ず聞かれますよね。  
**横山** 一番大事なのは現役世代に何かアピールしなきゃいけない。先輩後輩関係でいろんな業種業態の方と知り合える。特に先輩なんかね、あなたと関係があるところの社長かもしれないし、あなたの取引先のトップかもしれない。そういうことで、仕事に対してもメリットがあるということも訴える。前にも言いましたが、僕が校友会と最初に関わったのは「エグゼクティブの会」です。この会でエライ

人に会うことができた。それでいろんな仕事をもらうというわけじゃないけど、身近になってくるのですよ。そういった具体的な話を上げて、校友会に入るとそういうこともあるよと。こういったことを話してあげればいいなと思っています。  
**稲垣** 若い人もそうだけれど、まだまだ女性の常任幹事が少ないですね。  
**神内** 植木学長もおっしゃっています。世の中の流れはダイバーシティ、多様化です。やはり女性の常任幹事を増やさないと。  
**谷村** 若手、女性とか年齢は問わず、やる気のある新しい幹事、常任幹事をリクルートしたいですね。コロナが収まりつつあつて、催事なり行事が、校友会の再開とともにリアルに始まる。2年間の空白を乗り越えて、もう1度立て直すいい機会だと思っています。今日話されたような課題と対策について、これから考えていくために、今日はいい指摘がたくさんあったと思います。結論は「リアル」ですね。そんなことで今日は終わりにしたいと思います。皆さん、ありがとうございました。

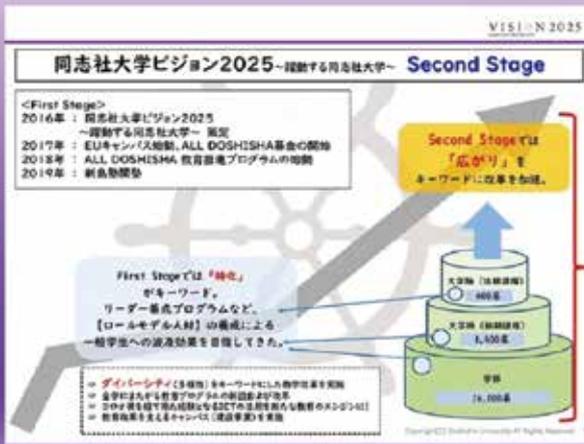
文責／神内一憲(72年・商)

京都発・スペシャルレポート

新しい試みでも**感動**は変わらない

# オンラインでリユニオン &ホームカミングデー

同志社大学ビジョン2025～躍動する同志社大学～



同志社大学 学長 植木 朝子

同志社創立146周年記念リユニオン・同志社大学ホームカミングデー2021

学長講演「同志社大学ビジョン2025 ～躍動する同志社大学～」 植木朝子学長

2021年11月14日（日）、現地での開催は叶わなかったが、「同志社創立146周年記念リユニオン／同志社大学ホームカミングデー2021」がオンラインで開催された。

現在、新型コロナウイルス感染症は落ち着きを見せている

が、大学としては引き続き感染予防に最大限配慮し、学外者の皆様には不要不急のキャンパス入構を控えてもらうことを基本方針としている。そのため当該イベントはコロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となっており、今回は、2019年から2年ぶりの開催であった。

6月にはリモートにて開催されることが告知された。そのため、京都の現地に集まることはできなかったが、来場した皆が同志社を感じられる仕様となっていた。

当日は同志社大学のHPからホームカミングデーの特設サイトへと移動し、YouTubeで視聴できるような

uTubeで視聴できるようになった（現在も特設サイトで視聴可能）。同志社大学HPから卒業生、ホームカミングデーと進むことでリンクに飛べる。但し、1月末で終了。

当日の開会式と植木学長の講演はLIVE配信となっており、それ以外は事前に録画されていたものを視聴できる仕様。

事前申し込みが不要であったことは、昨今の申込後ログインIDとパスワードの入力の繰り返しに辟易としている身としてはありがたいものであった。参加者の事前準備が省略されることで参加のハードルを下げており、良い試みだと好感が持てた。

また、事前に申込が必要ではあったもののZOOMのオンライン同窓会が開催できる工夫もされており、9つの団体にて同窓会が開催されていた。

### 各団体のYouTubeでも

当日は開会式が10時、植木学長の講演が11時開始となっており、それ以外の録画は自由に視聴できるようにになっていた。園児・学生の演舞演奏では同志社幼稚園の園児たちの合唱などが楽しめる。各団体でYouTube



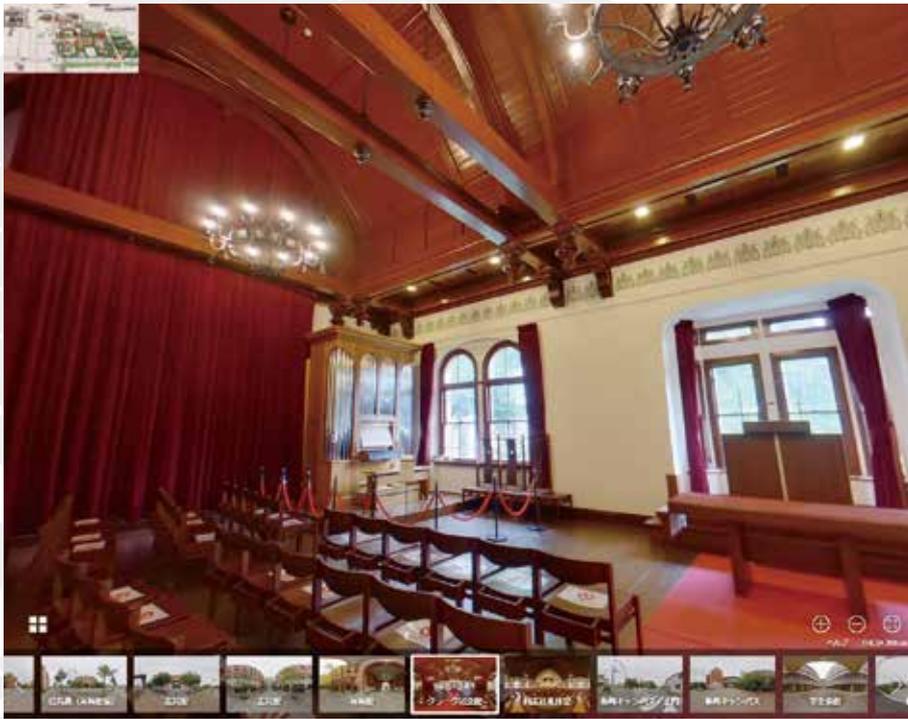
主催者メッセージ 八田英二総長・理事長

beが作成されており、初の女性応援団長である第113代團長・各務理紗（かがみりさ）さんの動画もある。

さて、当日の開会式はグリーンクラブも含めた讚美歌234Aからスタート。新島襄の葬儀の際に読まれた新約聖書のヨハネによる福音書12章24節の朗読並びに祈祷、当日参加された方達の挨拶は14分頃から視聴できた。

八田総長・理事長による式辞、植木学長による歓迎の言葉、松岡同志社校友会会長の言葉、三好同窓会会長の言葉と続く。

各々同志社にまつわるお話をされており、松岡同志社校友会会長の組織としてのあり方の話や三好同窓会会長の勝海舟と新島襄のエピソードなどは胸を熱くさせるものがあった。そして11時からは植木学長の



バーチャルキャンパスツアー クラーク記念館

講演。今回は同志社大学ビジョン2025セカンドステージについて講演された。

まずはコロナ対応の説明。感染症対策などがしつかり行われ、学内でのコロナの発生は抑えられている。更にコロナを対象とした研究を行い、医療だけでなく社会や経済への影響も検証。コロナ社会の中での行動変

容などを前提としたシンポジウムを開催。同志社大学HPから動画視聴が可能となっている。

今後の同志社の在り方を示す同志社大学ビジョン2025は、同志社の強みである14学部16研究科がお互いの価値を尊重している(ダイバーシティ)ことを活かしていく内容となっていた。

### 今回の企画、手法を活かして

同志社大学ビジョン2025は、2016年度に策定。2019年までをファーストステージとしてロールモデル人材の養成による一般学生への波及効果を目指してきた。今後のセカンドステージは広がりやをキーワードとして全ての学生に知的刺激を与えていこうとしている。ソフト面は後述していくが、ハード面としては今出川図書館建設事業や京田辺キャンパスリニューアル建設事業などを予定しており、総額230億円を超える事業となっている。

同志社大学ビジョン2025として話された、学長講演の内容を簡条書きで説明すると

1. 新時代の学びを創る(グローバル化・デジタル化に対応できる人材の育成)
- ・英語教育の新展開/数理、データサイエンス、AI教育の新展開
2. 同志社の伝統を現代風にアレンジ
- ・多様なバックボーンを持つ学生が生活を共にし、学びあえる教育寮を設置↓家賃負担が少ない「経済寮」とは異なる
3. 大学院教育の更なる進展

・分野を横断した教育プログラムを拡大

4. 創造的な研究の推進…カーボンリサイクルと宇宙生体医工学

・同志社大学カーボンリサイクル教育研究プラットフォーム↓CO2を資源として活用できないかを研究

5. グローバル化への対応

6. ダイバーシティ(多様性と寛容に満ちたキャンパスづくり)への取組

・多様性の実現は価値観の違いを克服する難しいテーマ。しかし、その難しさの中に、良さを見出すことができると考えられるエンパシーを身につけることを目指す。学生の男女比に比べ教員の女性比率が少ないことに課題を感じている。

以上6項目についての本講演はスライドも利用しながら説明



同志社幼稚園 園児の演奏

されており、今後の同志社の進む方向が分かりやすく説明されていた(HPで視聴可能)。

最後に同志社大学は他大学に比べ学生の学費依存率が高く、寄付金の比率が低いというデータが出ている。同志社大学2025 ALL DO SHISHA募金への協力については確定申告により寄付金控除を利用することもできる。

今回の試みは、様々な手法を凝らし、卒業生が価値を感じるよう企画されていた。

次年度のホームカミングデーは2022年11月13日(日)開催予定となっており、ぜひこのような手法も織り込みながら、リモートオンリーではなく、現地で顔合わせができる機会ができることが望まれる。

文責/大畑幸司(06年・商)



ホームカミングデー2021 エンディング

【特別協力会員の集いレポート】

学長  
特別講演

# 同志社大学ビジョン2025から ダイバーシティ・キャンパスの 推進に向けて

植木朝子学長

昨年11月12日（金）、コロナ禍のため2年ぶりの開催となった「特別協力会員の集い」が、東京校友会では初めての試みとなるWEBを使ったライブ講演会という形になりました。

京都からリモートで

過去2年中止となっていた「特別協力会員の集い」は、今年度も開催予定3か月程度前の中、リアルでの開催は残念な



オンラインで講演をする植木朝子学長(同志社大学提供)

がらあきらめざるを得ませんでした。その上で横山会長の発案を受け、ウィズコロナ時代を見据え、WEB開催に切り替えて実施するという初めてのチャレンジをいたしました。

一昨年4月のご就任以来、コロナ禍ですべての行事のリアル開催が中止となる中、ぜひ学長の生の声を聞きたいという特別協力会員の要望にお応えしたいという思いと、コロナの収束後にはリアルとWEBの併用、ハイブリット開催が常識化すると予測されることから、その準備の一環としてもWEB開催を行う意味は大きいと考えたわけです。

使用するアプリも、ZOOM等のWEB会議アプリではなく、大人数での開催を可能にするWEBセミナーアプリ「ウェビナー」を活用することになりました。

開催当日は、万全を期すべく、

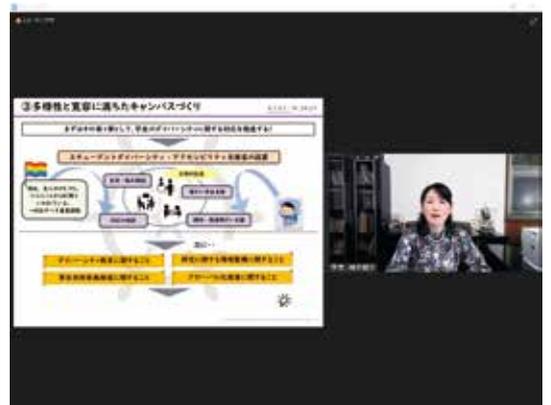
事前のリハーサルも実施し、参加者の皆様には開始15分前よりカレッジソングが流れるWEB上のルームにお入りいただく中、18:00より安永常任幹事の司会で「2021年度特別協力会員の集い」が2年ぶりに開催されました。

最初に、横山東京校友会長からの挨拶で、一般の開催に至った経緯などのお話があり、その後、京都の学長室より植木朝子学長による「同志社大学ビジョン2025（ダイバーシティ・キャンパスの推進に向けて）」と題した講演がスタート。

## 良心教育とダイバーシティ

講演の前段では、大学のコロナ対応について、徹底した対応と、学生達にも主体的に取り組んでもらう施策により、1件のクラスターも発生していないこと、学びの支援として、ノートPCの貸し出しや自習室の拡充を行ったり、教員のICTスキル向上に向けた施策も実施。

学生生活への支援として、給付型奨学金等を拡充していると



演題は「同志社大学ビジョン2025～ダイバーシティ・キャンパスの推進に向けて～」

のご報告があり、その原資の一部として校友の皆様からの多くの寄付についての感謝の言葉がありました。

また、このような取り組みにより、文科省のコロナ感染症対策好事例にも取り上げられたとのこと。

続いてダイバーシティ・キャンパスへの3つの取り組みについて、左記のとおりのご説明がありました。

### ①寮生活での教育活動を推進

人種、性別、障がいの有無、文化等が異なる学生が混住し、地域社会と共生する「継志寮」が21年9月よりスタート。

### ②多様な研究活動を促進

研究力向上に向けて、「AL



講演後の質疑応答もオンラインで

L Doshisha Research Model」という新たなスキームを構築。  
 まず第1弾として、コロナ研究の「COVID-19 Research Project」を大学の多様な学問分野の力を結集して立ち上げた。  
 「健康・医療」「社会・経済」「教育・文化・生活」の3領域で77課題のプロジェクトを実施した。  
 すでに2021年7月から5回のシンポジウムを開催して内外からの注目を集めている。  
 ③多様性と寛容に満ちたキャンパスづくり  
 昨年度には、「同志社大学ダイバーシティ推進宣言」を制定。建学の精神である「良心教育」を実践し、4つの取組みを行なってダイバーシティを推進

することを宣言。

本年4月には、ダイバーシティの推進の中核となる「ダイバーシティ推進委員会」を設置。また、学生のダイバーシティに関する対応を徹底するため、「スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室」も設置し推進する。

講演の最後に、事業活動収支に関する財務比率において寄付金比率が他大学と比較して低い現状のご報告があり、ALL DOSHISHA募金への感謝とともに一層の協力要請もありました。

そして、東京校友会独自の給付型奨学金への感謝と今後の継続への期待が述べられました。講演終了後、若干の質問の時間となり、「理系女子」の増加に向けた施策についての質疑等があり、最後に河本副会長より閉会の挨拶で講演会の御礼とダイバーシティへのエールをいただき、終了となりました。

参加登録42名、実際の参加者29名と少々寂しいWEB講演会となりましたが、運営上の問題点も含めて、次の機会に生かしていきたいと思えます。

文責／青木重之（78年・経）

## ◆第6回親睦ゴルフコンペが開催されました！ 万全のコロナ対策の中、 ナイスショットの連発！

2021年10月7日（木）絶好のゴルフ日和に恵まれた千葉の太平洋クラブ市原コースで第6回親睦ゴルフコンペが開催された。9月末に緊急事態宣言が解除されたタイミングだったが、コロナ対策には万全を期した。非接触型体温計で参加者全員を

チェック。手指消毒。プレイ時と食事の時以外はマスク着用。18ホールをプレイしたが、コンペ競技の成績判定は前半の9ホールのみを対象。プレイ後の集計待ち時間をなくし、密とならぬ様に成績発表パーティも見送る等の対策が講じられた。



いざスタート！44名のうち先行組

総勢44名が集い、年次会やクラブの仲間がチームを組んで熱戦を繰り広げた。競技は新ペリア方式の隠しホールで算定したハンディキャップ後のネットスコアで順位決定。チーム戦は組の中の上位3名のスコアが判定対象。優勝は杉本博史さん、城谷直彦さん、渡邊康嗣さんからなる51・58会チーム。準優勝は吉野浩視さん、河本



チーム戦優勝の51・58会チーム

和彦さん、野村正憲さん、谷垣憲一さんからなる45・53会チーム。3位は50会B級グルメーズだった。個人戦は41会の村上毅さんが、グロス42、HDCP7・2、ネット34・8で堂々の優勝。ベスグロはパープレー36の吉野浩視さん。  
 第7回親睦ゴルフコンペは本年10月4日（火）に予定されています。

文責／近藤義彦（69年・経）



村上毅さん(左)優勝副賞を横山会長より受領

連載 ⑫

登録団体活動レポート

同志社東京アンサンブル 岡村隆(76年・法)

# 20周年記念演奏会を開催予定

## 団体概要

【団体名】同志社東京アンサンブル  
 【設立年月日】1999年4月10日  
 【代表者】  
 団長 岡村隆 (76年・法卒)  
 【会員数】30名  
 【連絡先】090-2401-4383(岡村隆)



催し物での演奏

同志社東京アンサンブルは同志社交響楽団OB・OGのうち東京圏在住者が集まり音楽を楽しんでいる団体です。毎年春に行うアンサンブル大会、秋に開催される定期演奏会が主な活動です。今年、設立20周年記念定期演奏会を開催予定です。  
**発足の経緯など**  
 1998年に二千名以上の同志社交響楽団(同響)OB・OGのうち東京圏在住者



週末の練習風景(2013年)

によって同響東京地区OB会が設立されました。元々音楽を楽しんでいた仲間の集まりです。またまとった曲を演奏会形式で発表したいということになり、2001年8月に第一回定期演奏会を開催したのが始まりです。  
**毎年の活動**  
 毎年アンサンブル大会及び定期演奏会が活動の中心ですが、そのために毎月2・3回週末に集まって練習をしています。同志

## 役員構成

基本的には同響OB・OG及びその家族が構成員ですが、近年現役世代団員の女性比率が高く(半数以上)東京圏に就職する方が少なくなっています。それでも、毎年何名か新卒、転勤等で東京に来られ、新たに入団される方もいますが、さらなる団員拡充を図りたいところです。

## コロナ禍の影響

一昨年からコロナ禍はプロ・アマを問わず音楽関係者にとって大変な災難となつています。演奏会の開催も障害が多く、練習場所も規制が多く練習もままならない状況が続いています。一昨年予定していた20回記念定期演奏会は延期となり、

昨年も定期演奏会は開催できませんでした。今後の活動など

今後コロナ禍がどうなるか予断を許せませんが、今年

は是非とも20周年記念演奏会を開催するべく検討しています。同響

OBの息女で現在イタリア在住の

プロとして活躍されているバイオリンリストを

迎え、何とかバイオリン協奏曲をプログラムに加えたいと考えています。

**演奏会にお越しく下さい**

東京には沢山のアマチュア・オーケストラがありますが同志社東京アンサンブルもそれなり

の音楽レベルを保っていると思います。ただ、どうしても東京在住の同志社OB・OG数が限られるため観客数が伸びないのが悩みです。

最後に、皆様にはぜひ我々の演奏会に足をお運びくださるようお願いしたいと思います。



“サンピアンかわさき”にて定期演奏会(2012年12月)

# 硬式野球部 秋シーズン・レポート



仲間を鼓舞するエースの高橋恭

城下組が閉幕を迎えた。勝利を願う熱いプレー、そして必死になって戦うその姿勢は、後輩へと引き継がれていく。

## 4年生の涙

城下組の1年が幕を閉じた。「脇役の代」と称され、出場機会に最も恵まれなかった4年生たち。しかし下級生たちは口をそろえ「本当に頼もしい先輩たちだった。何とか勝って送り出したかった」と語った。

チームが一丸となって戦った最終節の立命大戦は2連敗で終幕。笑顔で終えることはできなかったが、1年時から何度も勝利に導いてきた高橋恭(経4)と城下(法4)がスタメンに名を連ね、数少ない4年生たちの躍動も見られた。4年間ひた向きに努力を重ねてきた彼らがマウンド、打席に立つたびに鳴り止まない歓声。そして交代のたびに起きる怒号が、いかに慕われてきた学年なのかを物語っていた。

主将城下は閉幕後「悔いがない



引退試合の4年生たち

いと云ったら嘘になる。でも力がないのに主将やらせてもらった、あれだけ声援を送ってくれた」と涙を浮かべた。優勝できなかった悔しさを痛感した1年。それでも主将城下は誰よりも「勝ち」にこだわる姿勢を後輩に見せ、優勝を狙えるチームになるべく日々精進してきた。

## 後輩たちに夢を託して

「采配ミスでした」。今季、何



今年度主将を務めた城下

度この言葉を聞いただろうか。チャンスで一打が出ない打線の沈黙、抑えきれない投手陣。露呈した課題はたくさんあった。それでも選手たちは同じ反省を語ることはなかった。常に前だけ向き、初戦の反省を次戦に生かしてきた。そのようなか中で、敗因が起用ミスでは選手たちが報われない。本当にベストの状態であっていただろうかと、疑問を残したまま閉幕となった。

来季開幕まであと3ヶ月。今季最大の失敗を生かし、全身全霊で優勝を目指す。納得のいかないまま引退を迎える4年生の



試合後の整列 思いは来年へ

ために。報われなかった4年生のために。思いは、来年へと受け継がれてゆく。チームがどれだけ落ち込もうと、同志社を応援する人がいる。たくさん人の思いを胸に、全員が笑って終われるように、来年こそ同じ思いはしないでほしい。「理想の終わり方ではなかったけど、それ(優勝)は来年の代に任しい」(城下)。最後までチームを思い奮闘した背番号1は、後輩たちへ夢を託した。4年生34人がチームに残した功績は、決して色あせることはない。

吉田麻沙子(社会学部3年)

連載 片桐家同志社五代記

その二十九

文／片桐 陽(67年・工)

前回到続き、同志社学生キリスト教運動史からの記載である。

福井震災救援活動を行った後、9月23日に天竜寺において同志社基督教学生修養会が開かれた。戦後の基督教学生集いの最初のものであった。大学の各学部で学生を活動の中心とする宗教部があり、これを各学部の宗教主任が後援していた。こうしたバラバラの宗教活動を一本化した組織として有賀鐵太郎教授を長として「同志社精神刷新委員会」なるものがあつた。こういう組織の中から修養会が開かれるに至つたのである。指導者として有賀鐵太郎・民秋重太郎等があつた。その時の主題は「全学生を基督教へ」であり、出席者は30名であつた。この天竜寺で行われた修養会で同志社学生クリスチャンフェデレーション(DSCF)が組織された。11月13日に致遠館でDSCFの発会式が行われ奨励はルース・シーベリー女史(同志社顧問)、記念講演は「基督教世界観」と題して関西学院片山正直教授が話された。出席者は400名にのぼつた。



清里合宿、集合写真 筆者は前から3列目右端

た。同時にDSCFは基督教教養講座を10月30日から開催して、その一環としてDSCFの発会式も行われたのである。その後福井の救援活動の参加者を中心にキャンプは毎年のように北小松、淡路島、飯盛野などで開催され、DSCFの聖歌隊は1956年同志社学生聖歌隊(DSC)となり、その年に倉敷、高松・松山へ演奏旅行に出掛けている。1959年にも松山・今治・倉敷と演奏旅行を行っているが、その後キャンプや花の日礼拝などの奉仕はしているものの、大きなイベントは開催されていない。私の入部した1963年から

1965年まで3年間の隊長は、神学部卒で現在軽井沢追分教会の牧師をされている稲垣壬午さんで、4年生の時の隊長は、やはり神学部卒の小久保和夫さんであつた。

さて、工学部電気工学科へ進んだ私は、授業に付いていくのがやっとで、DSCの活動には積極的に参加していないが、それでも夏休みに開催される合宿には出掛けた。2年生の合宿は清里で、山梨英和学院の山の家を借りて開催された。この年は色々といびソードが多いが、一番面白かつたのが妊娠騒ぎである。同級生であだ名を「ばやき」と呼ばれていた岡田忠夫君、お腹が痛いと言出したので、清里にある診療所へ連れていった。対応していただいたお医者様が面白い方で、彼から症状を聞いた後、少し間を置いてから真面目な顔をして、こう言い放つたのだ。「君これは、つまりだよ」。同行した仲間と大笑いしたのは勿論だが、当の本人はほやくことほやくこと。戻って全員にこの話をしたが、暫くの仲間間の笑いが途切れなかつた。残念なことに、彼は13年前、天に召されてしまった。

今出川・京田辺四季 思い出すのは生協の唐揚冷麺

料飲同志社 常任理事 大川倫子(92年・経)

私は同志社高校から大学へ進学いたしました。当時、お世辞にも新しいとは言えない岩倉校舎と比べ、新設されて3年目の田辺キャンパスはまだピカピカで、とてもワクワクしたのを覚えています。

学生時代の思い出を聞かれ思い出すのは、田辺校舎内の多彩な食堂、その中でも生協の唐揚冷麺が美味しかったこと、そして3回生から通つた今出川キャンパスは周辺にもたくさん美味しいお店があつたなあ、と。今はなき「わびすけ」のいもねぎ、パパ・ジョーンズのチーズケーキ、お店の名前は思い出せないけれど天津飯や大盛 Pasta など。とにかく食べる事が好きで、今もそれは変わりありません。

卒業後は就職、後に結婚をして東京に引越す事になり、生まれ育つた関西を離れるのは不安でしたが、9年前の高校の大同窓会の幹事学年をきっかけに、東京での同窓の集いにも参加する様になりました。

5年前の東京・春の集いで大学の同期会が発足しました。当時のお互いを知らなくて



卒業旅行、パリの蚤の市でのクラブの食べ歩き

も、同じ時を同じ場所でも、た事で共通の話題は尽きません。そのような同窓生の会に参加する事で、横だけでなく縦のつながりも広がりました。沢山の素晴らしいご縁に感謝しております。

料飲同志社に常任理事として参加するようになり、京都だけでなく東京にも同窓生の飲食店が多くある事を知りました。

このコロナ禍で飲食店の皆さまは本当に大変な思いをされたと思います。今後、生活スタイルが完全に元に戻るのかはまだ不安ではありますが、少しでも何らかの形で協力が出来たら嬉しく思います。

お店探しに困つた時は、ぜひとも同窓生のお店がある事を思い出してください。



# ゴールはいつもスタート

チェスター税理士事務所 代表社員 公認会計士  
 荒巻善宏さん 2004年(平成16年) 商学部卒

1981年(昭和56年)大阪府生まれ 2000年(平成12年)東住吉高等学校卒業 2004年(平成16年)同志社大学商学部卒業 2004年(平成16年)会計公認士第二試験合格 2004年(平成16年)監査法人トーマツ入所 2007年(平成19年)株式会社チェスター代表取締役 2008年(平成20年)税理士法人チェスター代表社員就任



常に新しいことに挑戦している

## 校友 訪問

25歳で独立し、たった2人で始めた税理士法人は開業以来、一貫して相続税申告に特化し躍進。昨年度は年間1500件以上の相続税申告実績となり業界トップクラスに成長した。今や従業員240名。その成功の秘訣を40歳の若き代表が語る。

志を持って同志社へ  
 大阪の松原市で3人兄弟の長男として、ごく普通に育った子供でした。高校時代はバスケットに夢中でしたが、転機は高校3年生の時に。大企業に勤務していた尊敬する父親が突然、リストラされたのです。父親のように大企業に就職しても安心はできないと、手にしたのが資格取得の本でした。何か資格を手に入れたいと思い、公認会計士

の試験に合格者を多く出していた同志社大学商学部を受験し合格。奨学金を申請し、片道約2時間かけて通学。入学時から目標を持っていたので、志の高い学生だったと思います。それでも2回生まではバスケットボールのサークルに入り、青春を謳歌しました。

### 東京で公認会計士へ

公認会計士の試験勉強を本格的に始めたのは3回生になってから。大学とは別に試験対策の専門の学校へも通いました。幸いなことに、大学を卒業した年の8月には公認会計士試験に合格。就職先を決めるにあたっては、ぜひ、東京へ出て勝負したいと思いい監査法人トーマツに入所し上京。そこで出会ったのが今、共同代表を一緒にしている同期の福留正明です。彼は奈良県、私は大阪出身と同じ関西人同士、しかも二人とも最初から独立志向が高かったのでウマが合い、就職して2年後から自分達の会社設立の準備を開始。その時、二人で借りたマンションの名前がチェスターコートでし

たので、初心を忘れない意味を込めて、それを社名にしたわけです。

### 独立して会社設立へ

1年間の準備を経て、大手監査法人から独立し、会社設立へ。当初はいくつかのビジネスを行いました。最終的に相続税という分野で勝負することに。わずか3年半の経験と弱冠25歳の若者2人の独立については、不安や周囲の様々な声もありましたが、それ以上に自分たちで事業を興し成長したいという気持ちが強かったのです。

### 誰もやらなかった事をやる

ビジネスモデルは、相続税に特化した税理士事務所。顧客はウェイブサイトで集めるというもの。いまだかつて、相続税専門の事務所など誰もやった者はいないし、相続の仕事は紹介やコネがあつて信頼されて初めて引き受けられるものと考えられていました。ですからネットで顧客を募ってもビジネスとして成立するわけがないと誰もが思っていたのです。

でも、前の会社で相続を担当した時に初めてお客様に感謝され、法人監査にはない喜びとやりがいを発見。相続は人の心が関係してきます。税金をただ計算するだけの仕事ではなく、その裏側にある相続人の心情をくみ取る仕事だと思っています。高齢化社会へ突入する日本は、ネットを見て無料で簡単に電話相談できる相続専門の税理士事務所が必要になると確信していました。

### ゴールはいつもスタート

ネットの普及と高齢化の時代の波に乗って会社は順調に発展し、全国に7拠点となりました。来年度はさらに母校・同志社のある京都を含め軽井沢などに5拠点を展開する予定です。

相続申告件数でトップクラスになりましたが、「ゴールはいつもスタート」が自分の座右の銘。現在は遺産総額5億円以上の大型案件や事業継承対策などあらゆる相続に対応し、相続に関する最高のプロフェッショナルサービス提供を目指しています。

文責/作村満明(77年・法)

幹事会・評議員会レポート

2021年度第3回幹事会第2回評議員会は、11月25日(木)の開催について、対面/ZOOM/書面での開催を9月常任幹事会で審議した結果、コロナ禍が収束しない現状等から、書面開催と決定いたしました。

【決議事項】①「第二回東京校友会奨学金制度」新規継続承認の件(2022~2026年の5年間)、②幹事選任の件、③非有資格者の会員承認の件。

【報告事項】④2021年度事業中間報告の件(4~10月まで)

の実施状況Ⅱ「ゴルフ大会」と「特別協力会員の集い」を開催、

⑤2021年度収支中間報告の件(収入4692千円、支出4452千円、収支239千円と赤字で推移)、⑥評議員・幹事退任・新任報告の件

(「マンドリン部OB会」と「ゴルフ部OB・OG会(東京)」が新規登録団体に)。

★以上、6議案の資料20ページを幹事・評議員に送付し、ご意見・要望を、EメールかFAXでお知らせいただくことにしました。

文責/阪口章夫(73年・商)

校友会「俳壇」

生き延びて秋風の香も糧とせむ

西岡正雄(73年・文)

〈評〉季語には「本意」というものがあり、それは和歌の季節感に多く求められる。秋風といえは藤原敏行の「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」がすぐ思いだされるのもそういうことだが、掲句の作者は音ではなく香として秋風を受け止めた。この五感のひとつに、上五の経験に関する万感をこめたのだろう。

\*随時募集、一回2句まで。無料。掲載句には表記の整理・添削などを行う場合があります。投句は、はかきは〒104-0061 中央区銀座1-15-7 MAC 銀座ビル3F 同志社東京J俳句係へ、FAXの場合は03-5579-9729 同志社東京J俳句係へ。

たにむら・たいむ 俳人協会・現代俳句協会 会員 俳句結社「炎環」 同人会会長 情報紙「定年時代」俳壇選者など。

大募集! 《校友・私の一句》

編集後記

本誌前号(125号)は、東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い「同志社スポーツ特集号」としてお届けしましたが、読者の方から次のような感想メールをいただきました。

\* このたびの秋号は大変内容が充実してそれぞれの記事が読みごたえがありました。特に「私の学生時代とスポーツ」は、在学時精一杯に生き、また卒業後も社会で精一杯に生き、母校とスポーツとクラブと仲間たちを愛する卒業生(各クラブの執筆者に感謝します)の熱い思いが彷彿として感じられました。スポーツは苦手な者ですが、母校に誇りを持って、勇気を与えられました。またこのような企画を期待しています。編集部の皆様にお礼を申し上げます。

\* 「私の学生時代とスポーツ」は2020年と21年の「集いガイドブック」編集グループでまとめられた記事を引き継いで掲載したものです。両年の編集担当者

の皆様へ感謝し、改めてお礼を申し上げます。

今号では新企画として「新春座談会」を掲載しましたが、いかがでしたでしょうか?

座談会でも話題に上がっていたように、リタイア年令の延長に伴って、東京校友会で活躍・活動される役員や会員の高齢化が進んでいます。

校友会は高齢者だけのものではなく、卒業生全員のものです。若い世代の校友への広報活動を一段と強化するとともに、現役で活躍されている校友の皆様が、もっと校友会の活動やイベントに参加しやすい環境を整えていきたいと考えています。

文責/新田博伸(77年・法)

**DOSHISHA TOKYO JOURNAL**  
 2022.January. NO.126 同志社東京校友会  
 〒104-0061 東京都中央区銀座1-15-7 MAC銀座ビル3F  
 電話: 03-5579-9728  
 FAX: 03-5579-9729  
 発行人/ 横山 徹  
 編集人/ 新田博伸  
 印刷/ 株式会社スバルグラフィック  
<https://www.doshisha-tokyo-alumni.jp>  
 mail:office@doshisha-tokyo-alumni.jp

HP会員ページ  
 ログイン情報

ID=doshisha  
 PASS=1875



人は寝ているあいだも、  
空気を吸っている。

だから私たちは、人の心と体に  
心地よい空気とは何かを考え続けています。  
人と空気のあいだに、いつもダイキン。

ダイキン工業株式会社